

令和 7 年12月4日
第137回多可町議会定例会

町長所信表明

町政基調:「住みたい町・住み続けたい町」

「移動の安心」・「広がる学びとスポーツ」・「つながる地域」で
暮らしの質を高め 人口減少の流れを変える

～ 3つの重点課題 ～

1. 通学と暮らしを支える公共交通の最適化
2. スポーツ・文化の地域展開で進める生徒起点の放課後デザイン
3. RMP で育む「支え合いの循環」と「集落の安心網」

多可町長 吉田 一四

はじめに 逆風を暮らしの力に変える 実装から実感へ

本日、第137回多可町議会定例会の開会にあたりまして、町政に対する私の所信の一端を申し述べ、多可町議会の皆様はじめ、住民の皆さんのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

この度の町長選挙におきましては、2期目に引き続き無投票という形で町政を担う重責をお預かりいたしました。ご信任に深く感謝し、その重みを胸に、3期目の町政運営に全力で取り組んでまいります。

今、我が国は、物価高と賃金の伸長との乖離、人口減少に伴う地域力格差の拡大、農林業の担い手不足や獣害、米の需給の不安定など、複合的な課題に直面しています。多可町も例外ではありません。若年層の流出が続き、高齢化率は既に40%を超えています(R7.11.1 現在 40.12%)。人口減少の速度を緩め、将来の安定につなげるとともに、小規模でも多様性と成長力を持つまちへ舵を切ること一刻の猶予ありません。

厳しい状況だからこそ、「暮らしの質を上げ、選ばれる力を高める好機」と捉え、国や県の制度を積極的に活用し、家計を直撃する物価高に対しては、子育て・教育・福祉・農林業の負担増を重点的に緩和してまいります。そして、地域の皆さんと手を携え、現場の声に基づく実装力で、この逆風を暮らしの安心と誇りに変えていきます。

就任以来、1期目は現場の声を起点に土台づくりを進め、2期目はそれを確実に形にしてきました。子育てでは「給付型支援」と「伴走型支援」を両輪で展開し、生涯学習まちづくりプラザ「あすみる」の建設、子育てふれあいセンター「ココミル」のリニューアル、統合中学校の整備など、環境整備も着実に前進させました。

3期目は、これまで実装した施策を「暮らしの実感」として定着させる時期です。わかりやすく、使いやすく、届きやすく磨き上げ、人口減少の流れを確実に変えるための「実感定着期間」と位置づけます。多可町で子育てする皆さんが、他地域の若い世代に胸を張って「多可町は暮らしやすい」と伝えられるよう、暮らしの利便と安心を高め、「子育てするならダントツ多可町」の実感を広げていきます。

このような状況において、3期目の町政基調として、「住みたい町・住み続けたいまち」に向け、3つの重点課題について順次申し述べさせていただきます。

重点課題 1:通学と暮らしを支える公共交通の最適化

来年4月開校の統合中学校への通学にあたり、多可町は安易にスクールバスに依存せず、地域公共交通を積極的に活用します。スクールバスのみで対応すると、平日の限られた時間帯に需要が集中し、民間路線の利用が細り、結果として路線撤退のリスクを高めかねません。路線バスでの通学を進めることは、生徒の通学ニーズという確かな需要で日常ダイヤを支え、運行の安定性と利便性を地域全体で維持し、将来世代に公共交通を引き継ぐための最善策であると考えます。

併せて、居住地にかかわらず、概ね40分以内で安心して通学できるよう、大幅なルート再編、時刻調整、停留所の環境整備など、バス事業者からの全面協力をいただきながら、学校、地域の関係者と連携して細部まで詰めてまいります。

また同時に、団塊世代が後期高齢期に入り、運転免許の返納が加速していくことが予測される中で、児童生徒のみならず高齢者の移動手段の確保も喫緊の課題となっております。

医療・買い物への移動が途切れば、健康や生活の質の低下につながります。

そこで本町は、今年から3年間にわたる国の「交通空白解消・集中対策期間」を好機と捉え、本年4月、いち早く国土交通省の交通空白解消緊急対策事業の採択を受けました。

8月には八千代区で主に70歳以上の約100名を対象に移動実態調査を実施し、9月には八千代区内の全集落を個別に訪問して、通院や買い物などの移動手段や外出の時間帯など、具体的なお声を丁寧に伺いました。

現在、その結果を基に、路線バスやタクシー事業者、社会福祉協議会、ボランティア団体等と協議を重ね、交通空白エリアを埋める新しい移動手段についての検討を重ねております。

まずは、八千代区での導入を目指していきませんが、ここで得られた知見とモデルは、加美区や中区へも横展開し、地区ごとの実情に合わせてチューニングしてまいります。

このように、誰もが安心して移動できる町を実現するために、通学・通院・買い物・交流という生活動線を一つの設計図で捉え、これに見合うサービス設計と運行の最適化を着実に進めてまいります。

重点課題2:スポーツ・文化の地域展開で進める生徒起点の放課後デザイン

全国的に進む「部活動の地域展開」について、多可町は、単に学校外の指導者へ任せる「移行」とせず、地域の皆さんと生徒が同じ場で学び合い、教え合い、世代を越えて継続できる「地域展開」を目指してまいります。

そのため、競技力や作品づくりの向上はもちろん、経験や体力、年齢に応じて、日頃の練習やイベントの企画、当日の運営補助など多様な機会で役割を広げ、子ども達の挑戦が地域の誇りとなり、地域の知恵や技が、子ども達の学びを深める「双方向の循環」となることを目指していきます。

なお、安全・安心の観点から、指導者の研修や活動におけるガイドラインなども整備するとともに、保護者の負担を軽減するなど、子ども達の「やってみたい」を「続けられる」に変えていく支援を図っていきます。

特に文化活動では、生涯学習まちづくりプラザ「あすみる」の各種講座と生涯学習人材バンクを中核に、「学ぶ、手伝う、教える」へ段階的に成長できる人材の循環を目指してまいります。初級から中級、実践プロジェクト、地域発表までの学びの道筋を示し、子ども達が地域イベントや学校行事で力を発揮できる場をつくるとともに、多彩な分野を横断し、世代間の協働も目指していきます。

また、学校との連携では、スポーツや文化活動そのものがもつ教育的価値を大切にしつつ、地域の指導者と役割を分担した無理のないスケジュールで継続性を高めていきます。

このように、「あすみる」等を核とした「部活動の地域展開」は、子ども達の選択肢をより一層広げるとともに、生徒における活動機会の均等化と、保護者や指導者における負担軽減を両立させながら、学び・文化・スポーツを世代でつなぎ、生徒自身が放課後をプロデュースする多可町ならではの取り組みとしてまいります。

地域への完全展開までに、まだまだ越えなければならない課題はありますが、産みの苦しみを関係者と分かち合いながら、着実に広げ、町全体を舞台にした生涯の学びと挑戦の輪をつくってまいります。

重点課題3:RMP で育む「支え合いの循環」と「集落の安心網」

本年3月、住民の皆さんで構成された RMP 準備委員会から「RMP まちづくり宣言」を受け取りました。宣言には、世代や背景、国籍や立場を越えて一人ひとりがつながり、助け合い、楽しみながら活躍することで、多可町という大きなプランターに色とりどりの花を咲かせ、希望の花が咲きほこる町を目指すという、温かく力強い思いが込められています。

RMP は、集落や従来からの団体という枠に固定されない「プラットフォーム／プレイス／ピープル／プロジェクト」の考え方を核に、現場の課題と機会に応じて柔軟に形を変える“実戦部隊”です。地域での困りごとなど、必要なときに必要な人と場所を素早くつなぐ機動力を備えています。

そのために、各区の地域局を地域住民の「たまり場」として機能させ、日常生活での困りごとに対する相談や寄り合い、小さな実践を進める拠点としての役割が担えるよう進めてまいります。

高齢化が進む多可町では、買い物支援、通院の付き添い、見守りや声かけ、ちょっとした家事の手助けなど、日常生活を支える細やかなニーズが確実に増えております。RMP には、こうしたニーズに対し、ボランティアや事業者、社会福祉協議会、行政などをつないで「無理のない支え合い」を設計・実装することで、暮らしを動かす実効性が期待されます。

また、見守りや連絡を通じて各方面での活動がネットワークでつながっていけば、災害時の初動対応や避難支援体制への速やかな切り替えなどが期待でき、平時と災害時を結ぶ防災力の強化にもつながっていくものと思われます。

さらに、地域の小さな挑戦を後押しする仕掛けも RMP に期待するところです。地域の空き家や空きスペースなどを含めた地域資源の活用や、移動支援と連動した各種イベントへの参加など、RMP は、人と場所・プロジェクトが重なり合い、流動的に進化する「多可町の新しい公共」として、まずは小さく、しかし、確実に進めてまいります。

そして、区ごとの実情に合わせて試行し、地域の人材・資源をつなぎ、支え合いの循環と安心網を育ててまいります。

おわりに

以上、町政執行の基本的な視点について、重点課題3項目を元に、その方向性について申し上げました。

本町は現在、65歳以上の人口ピークは過ぎており、緩やかな減少局面に入っています。しかし、人口における真に向き合うべき課題はこれから始まります。

このまま若年層の規模縮小に伴う出生数の激減が進めば、医療・福祉・地域交通など、あらゆる分野で後期高齢者の比率の上昇による負担が重くのしかかてきます。何としても、人口減少の急な下り坂から脱出し、その速度を確実に緩める対策を、今、着実に積み重ねていくことが重要です。

3期目の私は、この人口における本質的な課題に正面から取り組んでまいります。そのためにも、若い世代が「多可町で挑戦したい」と思える舞台を整え、その挑戦を、技術と知恵と経験をもつ高齢世代が支えるまちをつくってまいります。

そして、年齢や背景にかかわらず、誰もが役割と居場所を持ち、一步を踏み出せる、包摂性の高いまちを目指していくことが、「住みたい・住み続けたい」を増やし、人口減少の流れを変える最も確かな道だと確信しています。

また、広域行政の責任も一段と重みを増しています。西脇市との一部事務組合で進めるゴミ処理は、老朽化更新を機に、町制初となる多可町内で新ゴミ処理施設が建設され、いよいよ来年度に稼働します。安全性と透明性を最優先に、私自身が責任を持ち、地域住民の暮らしと、周辺自治体を含む広域の環境を守ってまいります。

なお、多可町の持続的発展には、住民に確実に効果が届く施策を推進しつつ、健全財政を堅持することが必要不可欠です。限られた財源を前提に、事業の目的・成果・費用対効果などを今一度明確にし、優先順位をつけて投資し、住民の皆さまの安心と将来の負担軽減の両立を目指してまいります。

重要課題が山積する3期目でございますが、確実な前進には、引き続き役場の「実行力」が要となります。役場職員には、住民の皆さんのための黒衣として、現場目線で課題を捉え、丁寧に仕事を積み重ねていくことを伝えております。

そして、民間の知恵と機動力、地域の多様な力を一つの力に束ねて前進させていきたいと考えております。

議会におかれましては、新しい顔ぶれも加わりました。

これまで以上に対話を重ね、是々非々で建設的に議論し、スピード感ある政策遂行に努めてまいります。

住民の皆さま、議会の皆さまとともに、一つひとつ課題を乗り越え、暮らしの安心と誇りを積み上げていくことが、多可町の安定した未来を守っていく最短かつ確実な歩みにつながっていくと信じておりますので、引き続きのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます、私の所信表明の結びといたします。